

あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱】

No. 189

平成26年5月1日

熊本県立図書館発行

“レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

Q. おたずね

県立図書館の周りには、何か歴史に因んだ由緒があるのですか。



A. こたえ

図書館には隣接する2か所の日本庭園があります。

一つは、熊本近代文学館側の通路下にある加勢川に面した庭園です。これは明治10年(1877)創業の川魚料理の東浜屋の元庭園です。画図村(熊本市東区江津1丁目)出身で、昭和期の代表的な俳人の中村汀女さんが東浜屋の客室を句会などに利用しており、庭園で記念撮影をしています。建物はありませんが、庭園は当時のまま残っています。

もう一つは県立図書館1階サロンから見渡せる湧水池がある広々とした庭園です。ここは元・砂取細川邸庭園で、明治7年(1874)4月に作成された「砂取御邸絵図」(永青文庫)に描かれています。池の形や飛び石の位置は明治7年の当時のままです。

砂取細川邸は、明治4年の廃藩置県以降の細川藩主家の屋敷であった北岡邸(旧妙解寺)、立田邸(旧泰勝寺)に次ぐ邸宅で、明治7年まで10代藩主斉護の奥方であった顕光院(広島藩主浅野齐賢の娘)が住み、明治10年2月の西南戦争では戦火を避けた13代藩主護久の娘らの避難所となり、これを庇護する旧藩士らが集まる援護拠点になりました。

西南戦争後には、牧崎(熊本市西区花園2丁目)の本邸を戦火で失った細川藩主家の分家の細川内膳家(細川忠興の長男忠隆の子孫)の屋敷となり、大正11年(1922)6月まで細川内膳家(男爵家)の屋敷でした。

その後、料亭「画津華壇」になり、さらに企業の事務所や保養所に利用された後、昭和47年に屋敷の建物が取り壊されてボーリング場が作られてからは庭園だけが残り、昭和60年に旧建物の位置に熊本県立図書館が建てられました。

「江津荘物語1～2 複写版」C629.2/シ/(1)

「水前寺成趣園庭園・絵津花壇十二勝園庭園」C629.2/ス



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp